中国山東省の医療従事者における安全な注射知識，態度および行動

李（リ）　黎（リ）*　小林（コバヤシ）　廉毅（ヤスキ）*　徐（ジョ）　愛強（アイキョウ）[2]*　千葉（チバ）　靖男（ヤスオ）[3]*
宋（ソウ）　立志（リッシ）[2]*　肖（ショウ）　作奎（サクケ）[2]*　張（チョウ）　麗（レイ）[2]*

目的　医療従事者における安全な注射に関する知識，態度および行動を調査し，注射に関する安全でない行為に関連する要因を検討する。

方法　中国・山東省における県，郷，村，3つの行政レベルの医療施設で働く医療従事者を対象として，質問紙調査を行った。調査項目は回答者の属性，注射に関する一般項目，安全な注射に関する知識・態度，安全でない行為の4つに大きく分類した。安全でない行為の関連要因を検討するため，「安全でない注射の実施」と「ディスポ注射器の正しくない処分」を従属変数として，それぞれ stepwise 法によるロジスティック回帰分析を行った。

結果　調査票を497人に配布し，468人から有効回答を得た。村，郷，県の順に平均年齢が高く，学歴において専門学校未満の者の割合が高かった。ディスポ注射器のみを使用する者は82.4％であり，県，郷，村の順に低くなった。安全な注射に関する知識の平均得点は14.9（満点18点）で，県，郷，村の順に低くなった。「安全でない注射の実施」の割合は6.2％，「ディスポ注射器の正しくない処分」の割合は7.6％であり，村レベルでは高い傾向がみられた。ロジスティック回帰分析の結果，「安全でない注射の実施」と関連していたのは「対象者の職称が中級未満」，「知識の得点が15点未満」，「AIDS を怖い病気と思わない」および「同じ注射器を二人以上の患者に使うことが許されると思う」ことであり，「ディスポ注射器の正しくない処分」と関連していたのは「職場が村レベル」，「知識の得点が15点未満」，「同じ注射器を二人以上の患者に使うことが許されると思う」および「ディスポ注射器を正しく処分する努力ができない」ことであった。

結論　山東省では村レベルの医療従事者における安全な注射の知識と望ましい態度が不足しており，今後医療従事者を対象した教育介入が必要と考えられた。

Key words：注射，安全な行動，医療従事者，中国，ロジスティック回帰分析

* 東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学
[2]* 中国・山東省疾病対策予防センター
[3]* 国立国際医療センター　国際医療協力局
連絡先：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院医学系研究科　公衆衛生学分野
李　黎